

# 病院の 実力

～岐阜編 137

## 病院の実力「眼科」

医療機関別2018年治療実績  
（常勤専門医は2019年4月現在、  
読売新聞調べ）

医療機関名	硝子体手術 (件)	白内障の水晶 体再建術 (件)	緑内障手術 (件)	常勤専門医数 (人)
<b>愛知</b>				
藤田医大	1428	2459	140	6
眼科杉田	963	5200	330	17
眼科三宅	853	4338	491	13
名古屋大	776	1063	123	11
JCHO中京	691	1828	505	7
愛知医大	473	1742	50	9
名古屋市大	379	659	125	13
大雄会第一	288	1317	115	2
豊橋市民	199	733	55	4
藤田医大ばんだね	110	223	19	—
公立陶生	99	855	6	2
豊田厚生	91	707	4	2
名古屋市立西部医療セ	81	1041	4	2
安城更生	60	724	10	2
名古屋市立東部医療セ	42	566	5	2
刈谷豊田総合	35	530	18	2
春日井市民	34	553	41	1
名古屋第一赤十字	7	271	2	1
豊川市民	0	500	3	2
小牧市民	0	496	0	1
聖霊	0	74	0	0
名古屋セントラル	—	115	0	1
<b>岐阜</b>				
松波総合	228	599	0	3
木沢記念	86	446	0	1
県立多治見	15	269	1	1
<b>三重</b>				
伊勢赤十字	193	983	38	3
桑名市総合医療セ	36	268	0	1

「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

今回は、眼科の治療を取り上げた。  
目の病気は年齢を重ねると増えてくる。治療法は日々進歩している。一覽表には、2018年に行われた「糖尿病網膜症などの硝子体手術」「白内障の水晶体再建術」「緑内障の手術」の各実績を載せた。糖尿病は、症状が進んで目の奥の網膜周辺で血管が破れて出血すると、視野の一部に黒い影が見えたり視力が低下したりする。眼球に3〜4か所の穴を開け、器具を入れて血を取り除くなどの硝子体手術を受けること

## 眼科

# 白内障に人工レンズ手術

術を受けることになる。傷ついた網膜を治したりもする。設備やスタッフの技量が重要だ。

白内障は、目の中でレンズの役割を果たす水晶体が老化などで、濁ってくる病気だ。初期は、症状の進行を抑える目薬を使う場合もある。視力低下などの症状で生活に支障が出てきたら、水晶体を取り除き、人工の眼内レンズに置き換える手術を受けることになる。



木沢記念病院（美濃加茂市）眼科  
長谷川 典生 部長代行 37

## 定期健診で早期発見を

視神経が傷つき、視野が狭まるのが緑内障だ。早期では、目薬を下げる目薬が治療の中心となる。目薬の効果が十分でなければ、眼圧上昇を抑えるための手術をする。一覽表には、専門的な医療を提供する体制の目安となる、日本眼科学会認定の専門医の常勤数も示した。

眼球は、内側から外側に圧力（眼圧）がかかっている。眼圧が高まり、目の奥にある

白内障に対する水晶体再建手術で扱う人工レンズには、ピントが合う距離が1か所の

単焦点と、複数の距離にピントが合う多焦点の二つのタイプがあります。

多焦点は近くも遠くも見えて、眼鏡を使わなくてもいいのが利点です。最近では、3点（近く、中間、遠方）に合うタイプも承認されました。ただ、多焦点は保険適用されないため、費用が高くなるほか、まぶしく感じやすくなるなどの難点もあります。

早い人だと40、50歳代から白内障と診断され、60歳代から手術を受ける傾向にあります。どのレンズのタイプを選ぶかは、自動車を運転する

など、ライフスタイルに合わせるのが重要になると考えます。

緑内障は近年、傷が小さくて済む手術や、インプラント（目に埋め込む器具）を使用する手術も行われるようになりましたが、「一方通行」の病気で、一度失われた視野が回復することはありません。片目の視野が狭まっても、もう片方の目がカバーするため、なかなか異常に気付きにくいという特徴があります。

糖尿病網膜症などに対する硝子体手術でも、技術の進歩で、眼球に開ける穴の大きさは小さくなってきており、患者さんの負担は軽くなりつつあります。

私は糖尿病網膜症や網膜剥離などが専門で、当院では、重症の患者さんも受け入れ、できるだけ早急に対応するよう心掛けております。多くの患者さんを診てきましたが、初期の糖尿病網膜症は自覚症状がなく、眼科を受診するケースは水山の一角かもしれない。緑内障と同様に、定期健診を受け、早期発見につなげることがとても大切です。

全国の調査結果は18日の「安心的设计面」に掲載しました。